

令和５年度 国立吉備青少年自然の家教育事業 自己肯定感アップキャンプ
--

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中でのグループ活動を通して異学年の仲間と主体的に関わり、４年生は３年時の経験を活かしながらいリーダーシップを発揮したり、３年生は自然の中での体験活動を通して自信をつけたりすることで、それぞれの自己肯定感を高める。

2. 事業の概要

（１）期日

令和５年１０月１９日（木）～１０月２０日（金）一泊二日

（２）参加者

吉備中央町立津賀小学校・円城小学校・御北小学校（３校連合）

小学校３年生１９人 ４年生１４人 計３３人

（３）企画・運営のポイント

- ① 小学校５年生の宿泊研修「海の学校」や小学校６年生の修学旅行があるので、２学年合同での宿泊活動として３年生と４年生に設定した。
- ② オンライン授業などで３校での交流をしているが、お互いを認め合う場の素地づくりとして、ＫＡＰ（吉備プロジェクトアドベンチャー）を３時間で計画した。
- ③ 今後、研修支援のパッケージ化のために、現在ある活動の中で遊びリンピックやスコアＯＬなど自己肯定感が上がりそうな活動を取り入れた。
- ④ 自己肯定感の変化を捉えるために、事前・事後でのアンケート調査を行った。また、活動中も自分や友達の良さを振り返る機会を多く設け、キラリシートにまとめて、視覚的に分かりやすくした。

3. 活動の内容等

（１）日程

10月19日（木）		10月20日（金）	
8:45	各小学校を出発	6:45	起床
9:30	入所式	7:15	掃除
10:00	仲間づくりゲーム（ＫＡＰ）	7:45	朝のつどい
11:30	荷物移動	8:00	朝食（レストラン）
12:00	昼食（レストラン）	9:00	退所点検
13:00	仲間づくりゲーム（ＫＡＰ）	9:30	遊びリンピック
14:15	スコアＯＬ（独自コース） （荒天時：館内オリエンテーリング）	11:00	野外炊事（ポリ袋炊飯）
17:15	夕べのつどい	13:00	振り返り
17:30	夕食（レストラン）	14:00	退所式
18:30	入浴（いずみのみ）	14:30	退所
19:30	キャンドルのつどい		
20:30	１日の反省		
21:30	就寝		

(2) 活動の状況



【KAP】



【スコアOL (ミッション)】



【キャンドルのつどい】



【遊びリンピック(カプラ積み)】



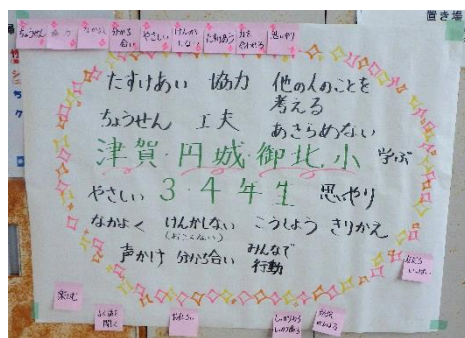
【野外炊事(新聞紙食器作り)】



【野外炊事(ポリ袋炊飯カレー)】



【振り返り】



【振り返り(キラリシート)】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

①児童

ア)前は自分のことを嫌いだったけど、今回のような経験をして自分を好きになった。

(3年生)

イ)困っている友達の手助けができてうれしかった。(3年生)

ウ)友達とたくさん話し合いをしたり友達のことを手伝ったりできた。(4年生)

エ)昨年やったことは3年生に教えてあげることができた。(4年生)

②教員

ア)「仲間づくり」や「協力」といった要素が含まれているプログラムがとても効果的であった。

イ)昨年と同じ活動もあったが、昨年の経験が活かした4年生もいたのではないと思う。

ウ)班の中で友達の良かったところを話し合う活動で自分の良さに気付けた子もいるのではと思われるので、アンケートはその後でも良かったと感じた。

エ)KAPに自然の中でできるプログラムがあればなお良いと思った。

(3) 成果



※経年…4年生の3年時(昨年度)の事前と4年時(今年度)の事後を比較したもの。

- ① 「今の自分が好きだ」「自分には良いところがある」「人の役に立っている」の項目で児童に事前と事後でアンケートをとったところ、どの項目も事後に伸びが見られた。特に「人の役に立っている」項目の伸びが大きかった。また、4年生については、昨年度の事前と比べても伸びが見られ、自己肯定感の高まりが見られた
- ② 昨年度は日帰りとなってしまったため、初の宿泊を伴うものとなったが、話し合い活動を多く取り入れたり、自分や友達の良いところを認め合う場を設定したりKAPを充実したことで、安心して活動できるきっかけとなった。
- ③ 各活動ごとに振り返りの時間を設けて、自分や友達の良いところを共有し、クリアシートに随時書き込んだことで、視覚的に分かりやすく意識の高まりにもつながった。

- ④ 団体と話し合いを重ね、スコアＯＬの範囲を狭めたり、簡易な野外炊事であるポリ袋炊飯を取り入れたりと児童の実態に合わせたプログラムを設定できた。また、キャンドルのつどいや入浴、就寝準備等は団体に進めてもらうようにしたことで、研修支援事業へとつなげていく流れができた。

(4) 今後の課題

- ① 室内での活動が多かったため、自然の中でも体験できるKAPの内容を研究していく。
- ② 研修支援事業として、岡山县内や近隣県に普及できるように、パッケージ化や効果の提示をしていく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克